

NKE 東南アで搬送装置生産

一 国集中リスクを分散

【京都】NKE(京都府長岡京市、中村道一社長、075・955・0071)は、2013年前半に東南アジアで部品自動搬送装置の製造会社を設立する。当初は中国で生産する予定だったが、海外事業が一国に集中するリスクを分散するため変更した。現地二

ストで迅速に生産し、主に東南アジアや中国、インドの日系顧客に納める。進出国や出資、売上高計画は今後詰めるが、16年に出資額相当の累積黒字を目指す。

製造販売会社は100%出資子会社か現地資本との合弁とし、駐在員を派遣する。エアチャックやスライドシリンダー、コンベヤーなどからなる搬送装置を主力に、簡素な「アジア仕様」も組み立てる。すでに引き合いがあり、自動車製造関連を主な顧客に開拓する。主要部品は日本から送るが現地調達を増やし、将来は一貫生産や日本市場への逆輸出も狙う。

NKEは海外市場の中心を中国と位置づけ、12年に広州市で100%出資子会社「広州中村機器自動化」を設立した。同子会社で初の海外生産をする計画だったが、日中関係が緊迫するリスクが高まったことも踏まえ、営業・サービス拠点にどめた。同子会社には駐在員も含め5人弱を配置し、機器を設計して現地会社にて生産委託する事業モデルを築く。東南アジアの新拠点と合わせ、「チャイナ・プラス・ワン」の海外体制を早急に整える。